

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090200237		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームすみれ		
所在地	群馬県高崎市新保町377		
自己評価作成日	平成29年6月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成29年7月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者様お一人お一人が孤立感や気兼ねなく、御本人らしく安定・安心した生活を送れるよう、表情・しぐさ・言葉等を敏感に感じ取り、記録や申し送り・職員会議等で職員間で共有・理解しケアの統一性やサービスの連続性を大切に居ています。施設独特の臭いが無いよう玄関・窓の開放をしながら御利用者様の安全確保に努めるとともに、外部からの危険な防犯に努めています。また、御利用者様の状態の変化や症状の悪化に対して早期の対応をとるとともに、安心・安全・安定した、笑顔の絶えない穏やかな生活の場を提供できるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームは地域の中で理解され、認知されるようになることが大切だが、事業所は、地域との関係をより良く改善する努力を続けた結果、利用者のサロンへの参加を受け入れてもらうことができ、緊急時、日常的な協力関係を構築している。また、運営推進会議の案内を全家族に発送し、出席を促すことに努め、多くの家族が出席している。よって、事業の運営等についての情報も公開され、開かれた施設となっている。施設環境についても、排泄自立の利用者が多く見られるが、臭いもなく、清潔さを保つ支援に努めることによって、一人ひとりの尊厳を守る取り組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1日1回出勤者と毎月1回の職員会議にて全職員で読み上げ、共有しています。	出勤時や申し送りの際、法人、事業所の理念を確認し、理念を基にケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のサロンへ全員参加を目指し出掛け、地域の方や他の事業所との交流を図っています。運営推進会議に御家族や地域の方、役所の方にも参加していただいています。	区長や民生委員等からも地域の情報提供があり、理解ある地域に支えられ、サロンへの参加、近隣保育園児の訪問、行事の際には相互に招待し合い交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方や御家族、またサロン等で地域の方、他事業所と情報交換や御理解いただける様努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告・行事・活動状況の報告を行いながら、利用者様・御家族様・地域の方・市の職員の方の質疑応答を行い情報の共有しサービスの向上に反映出来る様努めています。	会議の案内を全家族に出し、出席を促す努力をしている。結果、毎回4名程の出席を得て、事業所の運営状況、活動報告、法人アンケートの報告等を行ないサービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加して頂き、貴重なご意見をいただき、職員会議にて他の職員に発信と徹底しています。	運営推進会議に行政からの出席もあり、実情報告、意見交換等を通して協力関係を構築している。また、連携の要となる法人の担当課長が行政窓口に向くこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員会議にて勉強会を行い理解をして、行わない姿勢で徹底している。玄関の施錠についても、ご家族の方の意見も考慮し、利用者様の状況も踏まえ取り組んでいます。	隣接する道路事情や河川を考慮し、家族は玄関の施錠を希望しているが、職員間で身体拘束のないケアを目指し、週のほとんども開錠するよう取り組んでいる。共用空間の窓は開けられるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で学ぶ機会や話し合いの場を増やし職員ひとりひとりが虐待の防止の意識を高める様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去にも後見人制度を利用されていた利用者様がおられた為職員会議等で学ぶ機会を作っている。また、今後もそのような制度を活用できるよう御家族への発信もしていく様にする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時互いに確認しながら説明をさせて頂き理解と納得をして頂いている。また、改訂ごとに十分に説明をさせて頂き、不安や疑問点が有ればその都度納得されるまで説明をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族・ご利用者様には常に意見や質疑ができる環境を提供させて頂き、職員会議等で職員全員に反映させて頂いています。	運営推進会議、面会時に職員が直接、家族から要望を聞いている。また、管理者やケアマネジャーが利用者の要望等を把握し、記録に取り、ケアプランにつなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や面談、随時相談意見の言える環境を作り反映できる物については職員全体で話し合いをしています。	毎月の職員会議等の際、職員から意見や提案を聞き、ケアや運営に取り入れられるものは取り入れ、採用できない場合は説明をして相互理解を図る等、職員の意見を反映させる機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、職員個々に担当を任せ、やりがい達成感や向上心が持てる様にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員や研修委員など社内研修には進んで参加して頂き、職員会議などでも学んでいます。社内の研究発表もその一つです。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の施設との交流会に参加したり、地域のサロンにも参加し同業者との交流をはかっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規の方には、契約前に御家族を含め見学に来て頂けるようながしています。また、利用される方の不安や悩みなどを傾聴し、ご本人との信頼関係を築いていける様に勤めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時、訪問時、事前連絡を行う際には、要望や希望を傾聴し、開始までには良い関係作りができる様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御利用者様、御家族様の御意見御要望を踏まえ、ホームに馴染んで頂ける様な環境作りに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者様おひとりおひとりの出来る事や得意な分野で、職員と協力しお手伝いをして頂ける様努めています。また、職員が御利用者様の理解を深めいけるよう、生活歴等を把握する努力に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の中で垣間見る変化を、御家族来苑時にはその都度報告・連絡・相談させていただいています。また、いつでも来苑して頂ける様雰囲気作りや、運営推進会議の参加の声掛けに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族・御親戚・地域の方々が気軽に来苑出来る様な雰囲気作りや、来苑時には気持ちよく過ぎて頂けるよう努めています。	家族や親戚の定期的な訪問があり、これまでの関係が継続できるよう支援している。また、訪問時に、馴染みある物を持って来てもらう等している。新聞の購読などを続けている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自由に意見が出せる環境作りは勿論の事、個々に合った環境作りが出来る様に勤め、トラブルにならない様良く印間で常に話し合いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御利用が終了しても、いつでも来苑・連絡して頂けるよう環境作りに努め、意見等には心撃に応じるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御利用者様の表情声に出せない声に着目・気付くよう努め、表面化された時には職員一同で共有・理解し、カンファレンスや職員会議にて検討し御家族への報告連絡相談をしています。	日常的に交わされる利用者の言葉から思いをそのまま受け止め、また、時に言葉にならない表情や様子からも思いを察し、それを本人本位を重視したプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族・御利用者様からの情報に傾聴し、職員全体で理解・把握する様にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録等にて把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度のカンファレンスを開催、プランの見直し・状態変化等検討し反映させています。御家族様に必ず連絡相談を行い、要望希望を確認し反映出来る様に勤めています。	月に1度のモニタリングと3ヶ月に一度カンファレンスを定期的に行ない、状態等の変化時にはその都度、家族との相談を経てプランの見直しをし、利用者の現状に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録への記載、申し送りや日々の意見交換等で出た情報を職員会議等で共有し反映出来るように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者様・御家族様の変化をいち早く感じ取り傾聴し、今後を見据えたケアの対応に努めています。お一人お一人に統一したサービスの提供が出来る様に申し送りや職員会議の場を利用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(いきいきサロン)・近隣の保育園・他事業所等に参加され楽しんでいる様子です。また、外食・外出・バス旅行など計画実践しながら開放的な生活環境に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御利用者様御家族様の意見を反映し、ホームとの協力医療機関のDrと意見交換を行うようにしています。御家族様が納得していたけりよう、連絡・報告・相談しています。	入居時の選択により、利用者のほとんどが定期的な協力医の診療を受けている。歯科等専門医に受診する場合は、家族に相談し、他のかかりつけ医に通院する際は、家族が対応している。夜間の往診の協力も得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時に状態の報告・連絡・相談し不利益の生じない様に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族様・入院先の病院より御利用者様の状態をお聴きし把握に努めています。また、ご希望があれば医療機関との情報交換等に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族様と面談時や訪問時・運営推進会議等で話し合いの場を設け、資料など配布しながら説明を行い、その方に適したケアが行えるよう努めています。	看取りの事例はないが、看取りの指針については入居時に家族に説明し、その後段階ごとに話し合い、協力医とも医療連携して希望に沿った支援ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議等で事例をあげ勉強会を行ったり実際の対応で実践し身につけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回の自主訓練の他、年2回の消防署の指導を受けながらの訓練を地域の方の協力で進めています。	地震、災害、夜間の火災等を想定した年2回の防災訓練と毎月自主避難訓練を行なっている。備蓄品として日用品に加え非常食、ラジオ、懐中電灯等を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室・排泄介助時等介入させていただく時には最新の注意をはらい、人格を尊重した言葉遣い出来る様に努めています。	利用者の状態や状況に合った会話や声掛けをする等、利用者本位の個別ケアをすることで一人ひとりを尊重している。職員間でゆとり時間をかけた対応をするよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に自由に意見等言われています。発言の難しい方自己表現の困難な方には、支援方法や自己現実し易いような声掛け等探りながらの支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体で行う生活リハ・レクの他、日々御本人様の意志を尊重し、個々の想うように過して頂けるような環境作りに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の意思を尊重し衣類等は自由に選んで頂いています。また散髪が苦手な御利用者様には近隣の美容室や御家族様の散髪を楽しみにされてる方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御本人様の食器の墓器等に気を配り、季節感を味わえる様な料理を取り入れながら提供させて頂いています。食事の準備・片付け等も職員と会話を楽しまれながらされている方もいます。	献立は利用者の希望に沿うよう工夫している。1週間に数回は食材を購入し、独自に手作りしている。食事の準備等を楽しみに手伝える利用者もいるので、職員はその支援にも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減に気を付け、食事のバランスを考えながら、利用者様個々に合った食事の提供を行い、食事量や水分量の把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日食後の口腔ケアの声掛け促しています。義歯の方には毎晩義歯洗浄・除菌剤を使用し清潔に努めています。困難な方には介助に入らせて頂いています。その他に訪問歯科との連携し半年に1回の定期検診をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御利用者様の状態を把握しハット・リハビリパンツ・紙おむつ等の使用・不使用を、御本人・御家族様と検討していきます。排泄の感覚やタイミングなどを把握しながら、自尊心を傷つけないような声掛けをさせて頂いています	ほとんどの利用者がトイレ誘導による排泄の自立者で、それぞれの排泄のタイミング等を職員が把握し、声掛けをする個別支援によって実践されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のコーヒー牛乳、野菜など食物繊維の多い食べ物を取り入れたり、レク等での運動も取り入れています。また、便秘気味の方に関しては、訪問看護、往診Drへの報告・連絡・相談し対応に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日3名様毎に交代で入浴されています。希望があれば考慮し、受診等外出前には必ず入浴をしていただくなど配慮に努めています。	サロンや往診がある日は考慮し、金曜日を除く毎日13:30~16:00を入浴としている。入浴の準備が自分でできる利用者もいるので、その場合は支援をしている。	利用者にはいつでも入浴ができるという情報提供の為の声掛けをして、本人の意向に沿った支援をしてほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の中で活動・休息の時間を作り、生活のペースがつかめる様努めています。寝具など使用していた物を持ち込んで頂いて、安眠の安定を図れるよう環境作りも支援していきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認票を使用し御利用者様が服用されている内容を把握できるように努めています。また、各職員が薬剤提供票を確認し把握できるように居ています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人の特性に合ったお手伝いに着目し個々に活用しています。多彩なレク活動を通し、楽しみ事を増やせるよう努め、外出など気分転換が図れるよう支援していきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣へのさんぽ、地域への外出、テラスへの出入り等出来るように努めています。会社主催のバス旅行等、御家族様にも参加して頂けるよう支援しています。	月に1度のサロンへの参加、個別で出かける散歩、近くの施設からの招待に応じたり、季節毎のドライブ等に出掛ける支援をしている。家族の協力を得て食事や買い物等の外出をすることもある。	季節や行事毎の外出の他、テラスを活用して外気浴をする等、身近にできる日常的な気分転換の機会としての外出を心掛けてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御自分で管理されてる方もおります。御本人の自尊心・自立心を保てるよう御家族と相談しながら金銭の把握に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が来たり返信したりやり取りの出来る様支援していきます。希望があれば電話の対応も支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を開けたり、季節に合った温度設定に気を配り、一体感のある居住スペースで生活感のある音、匂いは御利用者様の安心できる居住空間になっており、御利用者様の動線になっています。	共用空間は法人の施設運営の経験が活かされている。清潔で風通しが良く、居室からフラットに続くテラスが、日常の外気浴に利用できるようになっている。子どもじみた装飾はなく落ち着いた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	孤立感を感じないようその場その場に適した話題づくりを職員が工夫し、展開しています。職員会議や申し送り等で意見交換し御利用者様が思い思いに過ぎて頂けるよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御自宅で使用されていた物や使い慣れたものを自由に持参して頂き、御自宅同様に安心して生活が出来る様な環境作りに努めています。	居室内にテーブル、椅子のセットが置かれ、文庫本や写真等もあり、自分の生活の形をそのまま継続している。その人らしい居心地の良い、愛着の湧く居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「便所」の張り紙、手すりを使用した移動の声掛け、段差の無いホールや廊下での転倒予防に努めています。御利用者様が休息が取れるよう和室や脱衣所・玄関等のベンチを利用されています。		